

霧島山（新燃岳）の火山活動解説資料

福岡管区气象台
火山監視・情報センター
鹿児島地方气象台

本日（9日）、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が九州地方整備局と共同で行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は直径 600m 程度で前回（7日）と大きな変化はありませんでした。

新燃岳火口から概ね 4 km の範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒が必要です。

新燃岳火口から概ね 3 km の範囲では、噴火に伴う火砕流に警戒が必要です。

風下側では降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意が必要です。これまでの噴火では、直径 4 cm から 6 cm の小さな噴石は新燃岳火口から 7 km 付近にまで達しています。また、爆発的噴火に伴う大きな空振に注意が必要です。

降雨時には泥流や土石流に注意が必要です。

○活動概況

・上空からの調査（図 1、図 2）

本日（9日）午後、気象庁機動調査班（JMA-MOT）が九州地方整備局と共同で行った上空からの調査では、火口内に蓄積された溶岩は一部が褐色となり、直径 600m 程度で前回（7日）と比較して大きさに変化はありませんでした。火口内では、溶岩周辺（主に東側と南側）で火口縁を超えない程度の白色噴煙を上げていました。また、火山灰の堆積により溶岩と火口壁の境界が不明瞭になっていました。

13 時 22 分に溶岩の中央付近で噴火が発生し、灰白色の噴煙が火口縁上 600m まで上がり東に流れました。

・噴煙など表面現象の状況

新燃岳では 7 日 18 時 09 分から噴火が継続していましたが、本日（9日）08 時 45 分に白色噴煙に変わり噴火の継続が停止しました。その後、10 時 07 分と 13 時 22 分にごく小規模な噴火が発生しました。

爆発的噴火は、2 月 3 日 08 時 09 分以降発生していません。

この火山活動解説資料は福岡管区气象台ホームページ (<http://www.jma-net.go.jp/fukuoka/>) や気象庁ホームページ (<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>) でも閲覧することができます。



図 1 霧島山（新燃岳） 火口内の状況

- ・火口内に蓄積された溶岩は直径 600m程度で前回（7日）と大きな変化はありませんでした。
- ・火口内では、溶岩周辺（主に東側と南側）で火口縁を超えない程度の白色噴煙を上げていました。また、火山灰の堆積により溶岩と火口壁の境界が不明瞭になっていました。



図 2 霧島山（新燃岳） 13時22分のごく小規模の噴火の状況

溶岩の中央部から灰白色の噴煙が火口縁上 600mまで上がり東に流れました。